

AB19940034J1

# 日米台青「高校生ライフスタイル調査」報告書

日本経済新聞 5/8(日) 掲載

【第三種郵便物認可】

## 日本の高校生は「享楽派」

# 「今を楽しむ」半数

### 日本青少年研究所 3カ国・地域調査 米・台の2倍以上

日本の高校生は「仕事より結婚」と考えるなど、個人の生活を大切にしたいと思っている一方で、「今を楽しむ」とする。現在享楽志向が強いことが7日、日本、米国、台湾の3カ国・地域を対象に、「日本青少年研究所」(正石保雄理事長)などが実施した「高校生ライフスタイル調査」でわかった。「仕事より結婚」派は日本で約七割に達し、米国、台湾を上回ったほか、「先のこと」を考えると「今を楽しむ」とする生徒の割合は、

合米国などの二倍以上。同研究所などでは「日本で個人主義的な傾向が強まった結果」と分析している。

調査は、同研究所と高校生を対象とした文化振興事業などを手掛ける「ニッポン文芸教育振興会」(善菜正理事長)が共同で、昨年秋季に実施。日・米・台湾をそれぞれ千人強の高校生から回答を得た。

調査結果によると、「良い仕事か結婚か」の問いで、「良い仕事か結婚か」と答えた高校生は日本で

六九・四％に上り、米国の六一・二％、台湾の三八・四％を上

回った。「家族をそれぞれ、自分のしたいことをすればいい」とする高校生も、日本で六一・五％と、米国(四〇・二％)、台湾(四九・七％)より多く、個人主義的な傾向が強いことがうかがえる。

一方、「先のことを考えず、今をエンジョイしたい」とする日本の高校生は五一・七％で、米国(三二・三％)、台湾(二三・〇％)を大きく上回り、逆に「将来に備えて勉強する」という高校生は四七・三％で、米国(六五・二％)、台湾(七六・九％)より少なかった。

「将来の生活はさうなものが」との問いには、「ためたお金」をおまけに「今」を楽しむ高校生が日本では三・三％と、米国の三・一％などに比べ、際立って多く、将来に対する、あまりのめどが、現在享楽志向に反映しているところも見て取れた。

# いまを楽しむ日本人 ▲4人に1人が将来を悲観

# 将来に備える米台 ▲勉強して大会社を目指す

将来に備えて勉強するより、現在を大いに楽しむべきだと考えている高校生が日本では五三%に達し、米國や台湾を大幅に上回っていることが七日、文部省所管の財団法人「日本青少年研究所」(千石保所長)の「高校生ライフスタイルに関する調査」で分かった。

## 高校生

日本の高校生のほぼ四人に一人が将来を悲観的に見ており、「今を楽しむ」事樂志向が強いことをうかがわせている。

調査は昨年十一月、日、米、台湾の高校生約千人ずつを対象に実施した。それによると、若い時は「現在を大いに楽しむべきだ」としたのは日本五三%、米三五%、台湾二三%。

## ライフスタイル調査

の順。逆に「将来に備えて勉強」は台湾七七%、米六五%、日本四七%で日本が最も低かった。

自分の将来の生活について「あまりよくない」「駄目だろ」と見ているのは日本が二三%。台湾の七%、米三%に比べ多いのが際立った。

「今、一番したいこと」という質問では、どの國も地域も「好きな真性と精手に職をつけ、会社に依存しない生きたい」という脱社志向が目立った。

「と回答したのは米が八%、台湾が五八%に對し日本はわずか一三%。意外だったのは仕事への態度。奇りは大樹に通じる「大きな会社で働き、一生を送りたい」というのは日本が三三%で最も低く、米五七%、台湾四四%、

手に職をつけ、会社に依存しない生きたいという脱社志向が目立った。

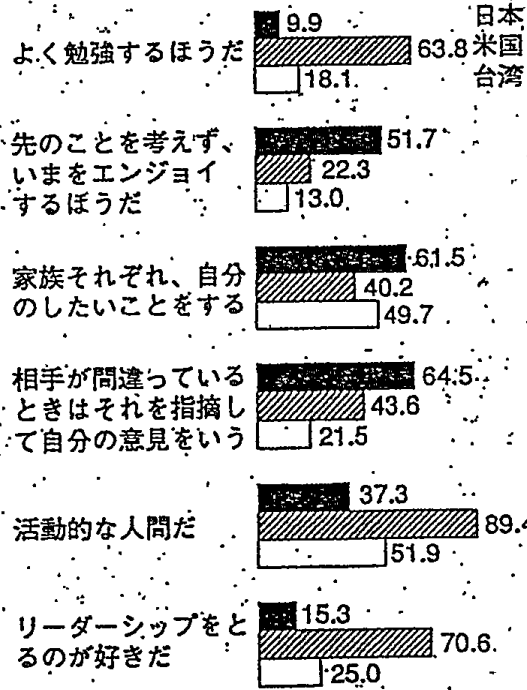
「ボランティアについて日米で比較すると」「している」高校生は日本四%、米六六%、父親は日本五%、米四二%、母親は日本九%、米五七%で、社会全体

▲▲勉強して大会社を目指す



日・米・台湾3カ国・地域の  
高校生の価値観比較

(数字は「そう思う」と答えた比率=%)



日本の高校生「今が良ければ…」

日本の高校生は自分の将来を「楽しみながら」と願う傾向が見られる一方、「いまをエンジョイする」「さっさと卒業的な傾向が強いことが七日、財団法人日本青少年研究所(千石保理事長)の日本、米国、台湾の高校生の比較調査で分かった。勉強への意欲は三方国・地域中最も低く、仕事で「会社」に依存したくない「さっさと組織嫌いが多数派。自分が「世話好き」で考える人やボランティア活動の経験者は最も少なく、他人とのかわりを望まない日本の高校生像が浮かび上がった。

調査は日本十二校、米国二十二校、台湾十校の高校生計約三千人を対象に昨秋に実施。ライフスタイルや価値観を問う質問では「先のこと」を考えず、「いまをエンジョイする」が米国二二%、台湾二二%に対し、日本は五二%と過半数。「家族それぞれ、自分のしたいことをする」は六二%、「相手が間違っているときはそれを指摘して自分の意見をいう」も六五%で、三方国・地域中最も多く、享樂志向と分析している。

「自分の将来について」あまり「楽しみながら」「駄目だ」と悲観的な高校生は、日本が二二%と米国(三%)、台湾(七%)を大きく上回った。「将来に備えて勉強しておきなさい」と将来を願う姿がよりその時を「楽しむべきだ」の二者択一で「勉強」を選んだのは米国六五%、台湾七七%に対し、日本は四七%。自分が「先へ勉強するほうだ」という答えも日本は一〇%と極端に少なく、日本の高校生の勉強意欲の低さが目立つ。

享樂的傾向、勉強の意欲は最低

ボランティア経験は日本四%、台湾六%に対し、米国六六%と文化の違いが表れたが、自分が「世話好き」と考えている生徒も米国八九%、台湾八三%に比べ、日本は五〇%と少なかった。

同研究所では「修業感覚を欠いた現在中心の快樂志向が日本の若者の特徴。世話好きの少なさは日本がそうした対人関係のモラルの継承に失敗したことを示す」と分析している。

AB(994 0034 J 4

97.5/8  
1/20